

和解と平和の職人 シスター マリア・トロンカッティ

シート 3 神の恵みを育む場としての共同体

今月は、マリア・トロンカッティがコルテノの「共同体」で体験したことを、さらに深く掘り下げてみたいと思います。彼女は聖霊の賜物を受けました。彼女は多くの人々の仲介によりそれを発見し、磨き、成長させました。コルテノは、勤勉で強い信仰を持つ人々が住む小さな山間の村です。その場所で、マリア・トロンカッティは、神の娘としての召命、信頼に満ちた親しみ深い祈り、村人たちとの素朴で賢明な分かち合い、そして、信者一人ひとりに「神のこと」を知らせる努力を続けた主任司祭の霊的同伴の中で成長しました。

ここでマリアは山々の彼方にまで視線を広げ、宣教女としての自分の心の高鳴りを感じました。そして彼女は、その固い決意と、質素な生活の中で表明された「私はここにいます」によって、人々にとって聖性の証しとなったのです。



神の言葉

「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。」（エフェソ4章 4節－7節）



Video: [Corteno, paese natio di Suor Maria Troncatti. Testimonianze.](#)



Sr. マリア・トロンカッティの列福のための「聖人認定書」より

思春期のマリアは、繊細な感情と家族全員への思いやりを持ち、喜びに満ちた自信をもって、宗教教育と秘跡への熱心な参加を通して神の父性への思いを深めようとしました。1895年5月11日以来、被昇天の聖母教会は、もう一人の偉大な司牧者、賢明な教師、そして啓発された指導者であるチェレリーノ・テストイーニ司教によって統治されています。トロンカッティ家の家長一家は、3つの家族で構成された27名で、主任司祭から尊敬と友情を寄せられていました。司祭はしばしば彼らを訪ねてきます。おそらく教会にとっても近かったからでしょう、と姪の一人、アンジェラ・サヴァルディは謙虚に語り、この情報を提供してくれました。

しかし、おそらくそれは、その家族の穏やかな勤勉さと祈りの生活の霊的なレベルを主任司祭が認識していたからでもあるでしょう。1897年に、テストイーニ司教は、非常に厳しい規約を掲げた「マリアの娘たちの会」を設立しました。けれども村の若い女性たちは、その規約の厳しさに落胆しませんでした。会員数は100名を超え、彼女たちは気まぐれや虚栄心にとらわれることなく、模範的なキリスト者としての生活を送ることを誓いました。主任司祭の厳しさは、その人の熱意に見合っており、彼は若者たちに対して迅速な養成活動に取り組みましたが、負った義務に違反したメンバーの名前を登録簿から公的に削除することを躊躇しませんでした。

彼はまた、成人の独身女性に対しては、「聖アンジェラ・メリチ会」を提唱しています。これは、あらゆる状況にある困窮者のために祈りと使徒的活動に身を捧げる、世間にあつて奉獻生活を送る女性の会です。カテリーナ・トロンカッティはそれに加わりましたが、一方マリアは、15歳の誕生日を目前にしていたので、「マリアの娘の会」に入会し、熱心に、あらゆる活動に心からの活発さと思慮深い参加を心がけました。

マリアと同じくシスターになり、後にエクアドルでの宣教活動に参加した従妹は、家族、特に神のしもべ(マリア)と同年の姉から聞いた感謝の気持ちを思い出してこう述べています。「マリアはまだ若かったにもかかわらず、神に自分を捧げる傾きを持っていました。(…) その時すでに彼女は修道女のような生活をおくっており、常に善良で非常に控えめでしたが、完全に神に属することを望む純粋な魂の表現である、穏やかな明るさを失うことはありませんでした」と。

この若い女性は、他のすべての若い女性に提案すべき良い模範となるような、慎み深い生活と祈りの生活を送っていました。彼女の活発な性質は彼女の善良な性質を隠すものではありませんでした。従姉のカテリーナは次のように回想しています。「彼女は「マリアの娘たち」の集会も、教会でのカテキズムも、一度も欠席しませんでした。彼女はたくさん祈っていました。時々、マリアが仕事から遅く帰宅するのを見た母親は、「寝る前にマリアは少なくとも一回は『主の祈り』を唱えているかしら」と尋ねました。そして、同じ部屋で寝ていた彼女の妹ルチアは答えました。「まあ、唱えていますとも、いくつもの『主の祈り』を！」[…]

妹のルチアはマリアのことを次のように回想し、マリアの青春時代を次のような簡単な言葉で要約しています。「彼女は本当に真のクリスチャンとして青春時代を過ごしました。そしてもしできるなら、たとえ良いアドバイスだけだとしても、彼女は誰にでも助けの手を伸べていました」と。

(Sr. マリア・トロンカッティ の『Positio Super Virtutibus』、26 ～ 28 ページからの証言)



Sr. マリア・トロンカッティの手紙より

手紙43で、Sr.マリア・トロンカッティは、修道召命と宣教の使命に「日に日に幸せ」を感じており、密林にいるのが幸せだと語っています。彼女は、グアヤキルで数年間過ごした後、一時的にマカスに戻りましたが、そこでの福音宣教の効果とキバリ族の寄宿生の数の多さは、自分の母親と姪甥たちの祈りによるものだと考えています。彼女は、自分が聖人となり、多くの人々をキリストの愛に導くことができるよう、さらなる祈りを願っています。

私のお母さん、そして兄弟姉妹たち、

1939年6月17日 マカスにて

昨日の夕方、4月23日付けのあなた方からの手紙を受け取りました。皆が元気で、特に私がいつも大きな愛情をもって思っている私の愛しい忘れられないお母さんが元気だと聞いて、本当に慰められました。私はアンジェロおじさんの娘、従姉カテリーナの死をととても悲しく思っています。かわいそうな私の代父のおじさん、彼がどれほど苦しんでいるかは想像することしかできません。

親愛なるカテリーナ、あなたは手紙の中で、私の母が私の犠牲のおかげで健康でいられると言っていましたね。それとは反対に、私が完璧な健康を享受し、修道生活と宣教生活において日々幸せを感じているとすれば、それはむしろ私の母とあなたの熱心な祈りのおかげだと思っています、親愛なるカテリーナ。良い母親だけが、娘にこの恵み、真の幸福を与えることができると、自信を持って言えます。私はここ（マカス）でキバリ族との生活を、とてもとても幸せに感じています。グアヤキルの街で貴族階級の中にいるよりもずっと幸せです。ここは、世間のあらゆる偽りから遠く離れた森の真ん中です。

ここで私たちはカテキズムを教え、病人を世話し、子どもたちを迎えています。ここには約20人の子どもがいて、最年少の2人は2歳の孤児たちです。マカスに戻る途中でそのうちの一人に出会ったのですが、かわいそうな子でした。キヴァリ族の人は彼の母親に毒を飲ませ、数日後に彼女は亡くなりました。司祭は彼女に洗礼を授け、私はその子どもをマカスに連れて行きました。彼らは彼に洗礼を授け、私は彼の名付け親です。彼はかわいい子で、話し始めています。私たちは彼にホセ・マリアという名前をつけました¹。

おそらく、あなた方はもう名付け子のジャコミーノのことを覚えていないでしょう。私はマカスに戻りましたが、今では彼がとても大きくなっていて、すでに15歳になっていることを知りました。彼は善良な青年で、毎日聖体拝領をしています。彼はいつもイタリアの代母のために祈ることを忘れないと言います。カテリーナがSr. ヴァッレに送った 200 リラについては、その後何も聞いていないとあなた方に伝えておきます。彼女は私にちょっとした物を送り続けていました。お礼を言ったかどうか覚えていませんが、私も自分用に美しいボールを 2 枚もらいましたが、とても高価です。先日、かわいい洋服が入った素敵な小包を受け取りました。長上たちから、私の家族が私に送ってくれているという手紙が届きました。私は心から感謝し、このような寛大な恩人であるあなた方全員のためにたくさん祈っていただくようお願いしました。

ここには 47人のキバリ族の寄宿生、つまり土着のキバリ族です。かなりの数です。彼女たちは善良です。それはあなた方と私の善良な姪甥たちの祈りの結果であることがわかります。7月25日は私の愛する兄と甥たちの霊名日ですね。私は彼らのためにたくさん祈ることをあなたにお伝えします。そして私のジャコモに私のためにたくさん祈ってくれるようお願いしてください。主が私を聖人にして靈魂を救ってくださるよう、私のディオミラ²には、初聖体をすることを勧めます。

親愛なるルチアへ、心からの挨拶を送ります。いつもあなたのことを思い出していますよ。勇気を出して、そして、扶助者聖母にいつも深く信頼してくださいね。

愛するお母さんへ、たくさんのキスを。カテリーナと弟へ、心からの挨拶を

いつもあなた方への愛情を込めて
シスター マリア・トロンカッティ



振り返りのために

小さな宣教共同体にとって、日常の物事は大きな価値をもちます。キヴァリ族の一人ひとりの健全な成長は祝福すべきことです。彼らの教育、霊的生活、そして何よりも彼らの家族としてのセンスは、彼女たちの使命の務めの一つです。

Sr.マリア・トロンカッティとシスターたちは、小さな子どもたちに対する神の愛の仲介者でした...

1. 私の人生と職業において、どのような神の仲介がありましたか。それらの人々や出来事から、私は何を学んだのでしょうか。
2. それら、彼らは、どのようにして私の中に神の恵みを成長させるのを助けてくれましたか。
3. 私の現在の体験、私が所属する共同体(教会共同体、教育共同体、青少年グループ)や仕事などを考えてみて、他の人の人生を生み出す環境づくりにどのように貢献できるでしょうか。

1 この手紙の中で彼女は、中毒で死にかけていた母親から託された、1938年生まれのホセ・マリア・エスペディートの悲痛な物語について初めて言及している。この赤ちゃんは1歳になるところだった。Sr.マリアは彼をマカスからセビリア・ドン・ボスコ、そしてスクアまで連れて行った。彼女は彼が成人するまで特別な世話をした。トロンカッティ家もこの若者に恩恵を与えた。初聖体拝領の日(1945年2月12日)、Sr.マリアは、儀式に必要なものをすべてイタリアから送ってもらい、その寛大な恩人は彼の兄弟ジャコモであった。

2 ルチアの娘で、当時7歳になるSr.マリアの姪



祈りのために

イエス、これが今日の私の祈りです。

私の共同体に感謝します...

そこからとても多くのことを得ています！

共同体に感謝したいことがたくさんあります！

その中で私はあなたを見出します。

その中で私はあなたを愛し、あなたに従うことを学んでいます。

そこから私はあなたの「良い知らせ」を聞きます。

共同体から私は旅路に必要な糧を受け取ります。

私が疲れているとき、共同体は励ましの言葉を残してくれます。

私が倒れたときは、どうか許してください。

私が弱っていると感じる時、共同体は私を強くしてくれ、

私が眠りに陥るとき、共同体は私を目覚めさせてくれます。

イエスよ、私の共同体に感謝します！

子どもたちや若者たち、そして高齢の方々に感謝します。

私たちは皆、あなたの共同体、あなたの教会をかたちづきます。

主よ、

今日も私は共同体のために祈りたい。

あなたのグループとその活動、そしてその人々のために。

その人々はどれほど私を助けてくれることでしょう！

温かい場所になりますように。

私たちがお互いを愛し、尊敬し合う場所、

兄弟姉妹として暮らす空間、

あなたのみ国のために共に働く空間です。

そして私は、私ができるすべての力を込めて、

もう一つお願いがあります。

私の小教区は自らのために、

そして自らの目的のために戦わないということです。

代わりに、私はあなたとあなたのことがらのために戦います。

私たちは多くのことを成し遂げたことによって、

あるいは数が多くて重要であることによって、

自分たちを際立たせるわけではないのです。

主よ、私たちが精力的で、夢を見ることで知られていますように

あなたが力強く夢見てきたものとともに。

イエスよ、私の共同体と

あなたの教会のこの小さな部分に感謝します。

それは目的に達するための手段です。

あなたは道であり、目的であり、将来の展望なのです。

アーメン